

北海道地区自然災害科学資料センターの 在り方に関するアンケート調査 (1)

北大工学部 太田 裕

北海道地区自然災害科学資料センターが北海道大学工学部に設置 (昭和 50 年度) 以来, 10 余年を経過し, 地区内外で果すべき役割が次第に明確になり, 重要となる一方で, 近年センター運用に関わる経費配分が不安定になるなど, 大きな問題を抱えるに至っている。

このような現状の打破を計り, センターがもつ機能拡充を達成し, いま一層の活性化を実現するための基本要請は, 地区の災害研究者がセンターがもつ意義を十分認識し, 協力態勢を確実にすることである。この事は一見あまりにも自明に思われるが, 実状はさほど明瞭ではない。このアンケートは, この点に鑑み, 地区内在住の全ての研究者を対象に, センターについてどのような考えをもっているか, センター発展への協力態勢は如何……について, 現状をできるだけ正確に把握することを目的に立案されている。

本報告では, アンケートの全文を掲載し, 次号以下で回答とその分析結果を用意し, 大方のご意見を仰ぐ積りである。

.....◇◇◇◇◇◇◇◇.....

北海道地区自然災害科学資料センターの在り方に関するアンケート —機能拡充とさらなる活性化のために—

(1988 年 11 月 吉日)

北海道大学自然災害科学資料 (センター) 室

【背景と現状】 ご承知のように, 本資料室 (通称: 資料センター) は以下の目的・経緯で設立されている。すなわち, 災害科学研究進展のためには, 多くの関連分野を総合した全国調査研究網を設け, これによる常時の調査観測を実施し, 過去の災害資料について解析を加え, また災害発生時には必要資料が直ちに利用できる態勢の確保が重要であるとの基本の考えから, 全国少なくとも 6 地区に, 地域的な特色を有する資料センターの設置が強く要望されてきた。その結果, 北海道地区には昭和 50 年度に自然災害科学資料室が北海道大学内に工学部所属の [資料室] として開設されている。

以来, 本資料センターは北海道地区を主対象に, 個々の災害資料を収集・整理保存し, 地域内研究者・自治体等へ資料情報を提供し, 併せて, 他地区資料センター・文部省災害科学研究総合班 (現在の重点領域研究班) と連係を密に保ちながら, 収集資料解析研究を多面的に進めてきた。さらに, 他地区との研究連絡・共同研究・研究集会, 突発災害調査研究の立案などを行い, 北海道地区共同利用センターと

して自然災害科学研究および成果の利用に関する推進を計ってきた。北海道地区の大学関係の研究者は、現在 150 名余に達している。

以上が、当資料センターの現在に至る概要であるが、その実態が[定員なし、年間経費 400 万円程度]という厳しい条件下にあることを考える時、今日まで、これの維持・発展に奮迅の努力をされた諸先輩、関係者のご協力は、敬服の一語に尽きる。しかし、それにも拘わらず、“目標は高く、いまだ問題は多し”という現実是否めない。いわく、将来展望は？ 現状改善策は？ 資料収集の促進は？ 地区内交流改善は？ 他地区との連携改善は？ など、問題は尽きない。中でも、災害情報センターとしての機能拡充は、たまたま全国レベルで[災害データベース作成]への強い要請もあり、早急な検討を要する重要課題となっている。このように地区センター内部に問題が山積している状況に加えて、昭和 60 年度以降は、[設立後 10 年を目処とする既存施設の一斉見直し]という文部省方針の故に、本地区センターの運営費カットが強行され、年毎の復活要求で継続しているものの、活動経費が多分に不安定な状態にある。

【アンケートの趣旨】このような次第で現在は全ゆる意味で、“センターの今後”を考える最も重要な時期となっており、今がこのための千載一遇のチャンスともいえる。これを乗り切れるか、そしてセンターの将来発展があり得るか否かは、ひとえに地区内関係者のご協力如何にかかっている。この観点から、何はともあれ、皆さんからのご意見を頂き、問題点を整理し、現状打開の方策を探索することが先決であると考え、その第一段として、このアンケートを用意させていただいた。

【アンケートの構成】上記の事由から、このアンケートは以下の 2 項目を中心に構成されている。すなわち、

センターの在り方に関する一般的・各論的ご意見
災害資料データベース作成に関するご意見

である。前者は、文字通り現在・将来にわたって、[センターの在るべき姿を探る]ための質問群から成っている。後者は、全国レベルの災害データベース作成への動きと関連させながら、同時に、本資料センターのさらなる活性化達成に基礎を与えるべく、北海道地区独自の[災害情報データベースシステム]作成を検討するための質問群である。アンケート本体は、B 5 版 8 ページからなっている。

質問事項も多々あり、回答に難渋される場合なきにしもあらずと思われるが、これも[資料センターの資料収集活動]の一環とお考えいただき、地区内研究者全員の皆さんに、協力をお願い致す次第である。回答は、12 月 20 日頃を目処に下記宛にご返送いただきたい。アンケートの整理結果は、センター報告に載せるなどして、さらなる検討への基本資料とする予定である。

本調査に関する連絡先：北海道大学自然災害科学資料（センター）室 太田 裕
060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
電話 (011) 716-2111, Ext. 6262, 6253
FAX (011) 737-5449

【注】回答上の参考に供すべく、別紙に[資料センター問題]、[資料・情報に関する用語]などの簡単なメモを用意した。

【0】 フェースシート

ふりがな		機関・部局名			職名	
氏 名		所在地等	〒	電話	内線	F A X
ローマ字		勤務先				

【1】 センターの在り方に関する一般的・各論的質問群

北海道地区資料センターの現状について	回 答 欄	整 理 欄
全般的にみて、如何なるイメージ（意義、存在・近親感など）をお持ちか	意義： 存在・近親感：	
ご自身の具体的関わり、あるいは利用のご経験はあや		
	0次資料： 1次資料： 2次資料：	
利用のための設備等の整備状況について、如何なる判断をお持ちか		
センター出版物（文献集、センター報告など）の利用価値は如何		
センターの運営・活動に関する情報など、連絡の現状は如何		
その他、現状についての特段のご意見ありや		

センターの改善・機能拡充に向けて	回 答 欄	整 理 欄
在りたい姿の全体像は、如何	目標・業務内容など：	
	規模（予算、人員構成）など：	
	運営方式など：	
その実現に向けての方策は、如何		
貴方自身が、それに貢献できる程度は、如何		

〔災害資料〕の全般について	回 答 欄	整 理 欄
災害〔基本〕資料として、如何なるイメージをお持ちか （〔資料種別〕、〔被災事象・項目〕など 具体的記載が望まれる）	自然災害共通資料として： 0次資料： 1次資料： 2次資料：	
	専門の立場から： 0次資料： 1次資料： 2次資料：	
地区センターとして、如何なる資料の収集・保存が望まれるか （〔資料種別〕、〔被災事象・項目〕など 具体的記載が望まれる）	自然災害共通資料として： 0次資料： 1次資料： 2次資料：	
	専門の立場から： 0次資料： 1次資料： 2次資料：	

中央センター（＊）として、如何なる資料の収集・保存が望まれるか ＊京大防災研への設置が検討されている	地区センターとの役割分担については：	
（〔資料種別〕、〔被災事象・項目〕など具体的記載が望まれる）	自然災害共通の資料として： 0次資料： 1次資料： 2次資料：	
	専門の立場から： 0次資料： 1次資料 2次資料：	
	整理・保存法として： 検索・利用の手順として： センター～研究者間連絡の具体策は：	
資料活用機能拡充のために人材が不可欠と思われるが、現状では充足が非常に困難との前提で、代案があるか	貴方自身の協力（資料提供、実務参加）の可能性は： 当面の到達目標・可能な手順など：	

【11】 [全国、データベース] 作成協力に関する質問群

近年、災害科学研究の基盤環境改善の一環として全国レベルの[災害資料データベース]作成・充実の要望が高く、またこれを地区センター整備の推進力として位置付けるという観点から、文部省自然災害総合情報委員会（長：京大防災研 角屋 睦氏）が中心となって、明年度の科学研究費[データベースの作成]に申請し、具体的に進めていこうという動きがある。この場合、実際には、地区毎の支援態勢・実務的協力なしには、進展は殆ど期待し得ない。換言すれば、各地区（の研究者）に一定のノルマが課せられることになる。当初は、2次資料の収集・データベース化・利用（文献検索）で始め、漸次イメージデータベース、数値データベースへと内容充実を計りたい意向と伺っている。相当量のデータ蓄積が進んだ際には、その効用は格段のものとなろうが、他方そのためには研究者各自が多大の実務協力を覚悟しないと誰かに頼む訳にはいかないもので、その実現は大変難しいものと思われる。このような状況を踏まえて、本件に関連して以下の質問を用意させていただいた。

全国レベルの災害資料データベースを作成することについて	回 答 欄	整 理 欄
作成の[可否]に関する全般的ご意見	賛成の場合： 反対の場合： 賛否保留の場合	
[作成]への協力の程度（賛成、または賛否保留の場合）	作成の[実務分担]： [資料・情報提供など]の間接協力：	
作成データベースの範囲（分野、種別、地域）について	分野（当面[災害プロパー]に限定することについて）： 種別（当面[2次資料（文献）]から始めることについて）： 地域（当面[国内]に限定することについて）：	
その他、ご意見		

【111】 独自の「データベースシステム」作成に関する質問群

全国レベルのデータベースシステムは、長期的には有用となる一方、実現には多大の努力を必要とし、それ自体、即効性あるものとはなりにくい難点がある。もし、方法を工夫し、地域・対象等を限定し、関係者の若干の努力でシステム構築が可能ならば、研究者相互に利するところ、大きい筈である。この観点から、北海道地区独自の災害情報データベースシステム作成が検討されている。その骨子は「人材データベースシステム」である。すなわち、地域内研究者がそれぞれに獲得しておられる「知識、災害資料・情報等」をキーワード的に、所在情報としてデータベース化し、小型電算機による知的検索ソフトを通じて、相互の活用を実現するシステムである。例えば、[〇〇について資料を得たい、〇〇について情報を知りたい（一種別を問わない）]との質問入力に対して「何処そこにある、誰々が詳しい」といった出力が期待できるような研究者（人間）中心の情報システムである。この方式の利点は、研究者各位がそれ自体「独自のデータベース」の持主であるという事実を、最大限利用していくことを想定しており、一般システム作成時の最大の難点である「既存災害資料・情報の大量データを電算機に入力する、膨大な作業を必要としな

い」ところにある。したがって、地区内研究者150名余について、この方式でのデータベース化は一賛同が得られるならば一短期的に可能であり、またこれだけの数の研究者データバンクが実現するならば、かなりの活用が期待できる。以下は、この北海道地区独自の「災害情報データベースシステム」作成の試みに関する質問群である。

災害情報（人材、知識）データベースの作成と活用について	回 答 欄	整 理 欄
作成の「可否」に関する全般的ご意見	賛成の場合： 反体の場合： 賛否保留の場合：	
システムへの協力の程度（賛成、または賛否保留の場合） * 「反対」の場合、これ以下の記入は不要です。このままで、ご返送下さい	データベースへの「ご自身の登録」 [資料・情報提供など]の協力：	
「活用」方法について（賛成、または賛否保留の場合）	期待する情報の「質・量」など： 連絡・問い合わせ方法（個人 ⇔ センター）など：	
人材データベースの範囲（分野、地域、所属）などについて	分野（当面「自然災害科学」に限定することについて）： 地域（当面「北海道地区」に限定することについて）： 所属（当面「大学関係、現役」に限定することについて）：	

【以下は、人材データベース作成用〔資料〕記入欄：データベースへの〔登録〕を”可”と答えた方の記入を期待する】

個人情報一般	回 答 欄		整 理 欄
専門分野など	最終学歴：	大学 部 学科 専攻 年卒 学校	
		大学大学院 研究科 専攻 年修	
	災害専門分科会 [主] [副]		
	現在の専門分野：		
	主な所属学会（国内）		
	1. 2. 3. 4.		
研究関心など （記載例） 研究課題：〇〇に関する △△的研究 キーワード： 対象：災害種別、地域、 時間など 目的：原因、実態、防災 など 手段：観測、調査、実験 統計、理論、総合 など （いずれも、具体的に）	主な研究課題（災害関連分野） キーワード、各4個まで		
	1.	対象： 目的： 手段：	
	2.	対象： 目的： 手段：	
	3.	対象： 目的： 手段：	
	主な研究課題（その他の分野） キーワード、各2個まで		
	1.	対象： 目的： 手段：	
	2.	対象： 目的： 手段：	

「人材、知識データ」の入・出力に関連して	回	答	欄	整 理 欄
「資料・情報」などの提供可能な事象・項目など、如何一手持ちの有無を問わないー (参考例) 0 次資料・情報： 河川流量、強震記録、ボーリング、降雪量、現場写真・・・ 1 次資料・情報： 地図図、ハザードマップ、防災マニュアル、観測網・・・ 2 次資料・情報： ジャーナル、プロシードニングなど、 政府・公的機関、民間シンクタンクなど、刊行物・・・ 特殊出版物・・・ 知識資料・情報： 観測・実験上の特殊技術・・・ 計算処理上の特殊技術・・・ 外国事情（特定国に関する）・・・	主専門分科会 [	]	関連分野において 0 次資料・情報（生の実験・観測データ、被害調査写真・記録など）： (1) (5) (2) (6) (3) (7) (4) (8) 1 次資料・情報（統計資料、被害報告書、災害地図など）： (1) (5) (2) (6) (3) (7) (4) (8) 2 次資料・情報（論文など、いわゆる文献資料）： (1) (5) (2) (6) (3) (7) (4) (8) 知識資料・情報（特別のものがあれば）： (1) (2) (3)	
	副専門分科会 [	]	関連分野において 0 次資料・情報： (1) (3) (2) (4) 1 次資料・情報： (1) (3) (2) (4) 2 次資料・情報： (1) (3) (2) (4) 知識資料・情報（特別のものがあれば）： (1)	

[資料・情報] 提供への問い合わせは、どのような形が望まれるか	[依頼者⇒ センター（提供可能者出）⇒ 提供者] の方式は： [依頼者⇒ センター⇒ 依頼者⇒ 提供者] の方式は： その他の、望ましい方式は：	
[資料・情報] 提供への実際要請があった場合、どのような対応—無条件提供、条件次第など—可能か （条件付きの場合、詳しく）	0 次資料・情報に対して： 1 次資料・情報に対して： 2 次資料・情報に対して： 知識資料・情報に対して： 手許にはなく、[所在] 情報のみの場合：	
[資料・情報] 提供に伴うバランスについて、どのような扱いが望まれるか	提供に伴う [実費] などは： 依頼者側の [資料・情報の扱い（公開、複写など）] は： 依頼者側の成果発表時の扱いは：	
その他の留意事項は、如何	1 . 2 . 3 .	

記入 終了	:	198	年	月	日
-------	---	-----	---	---	---

☐ ご協力有難うございました。記入漏れがないか、もう一度点検していただいた上、12月20日を目処にご返送下さい。

参考メモ：[資料センター問題]，[資料・情報に関する用語] など

[1] 地区センター関連 [事項]

- 外（文部省，他地区，学内他施設など）に対して－特徴を！
- 内（地区内・学内など利用者）に対して－魅力を！
- 現員のために

基本資料の充実

- ・地区基盤環境資料整備：基本資料－発展資料－特殊資料
 例えば 基本資料：自然社会環境（静態），
 発展資料：自然社会環境（動態，対象別）
 特殊資料：市町村別地域防災計画書，地域改善将来計画書
- ・災害基本図書整備：各種統計書・地図書（道内，国内，世界）・災害基本雑誌（重要刊
 行物のバックナンバー含む）
- ・知識資料の整備：地区内（外）研究者特性（分野，テーマ，手法，特別資料…）デー
 タ整備
- ・既往災害事例資料整備：道庁－支庁－市町村史資料，災害ビデオ，災害報告（体験談
 含む）

利用方法の改善

- ・所在情報の充実（センター内，学内ほか），検索（リトリバー）の容易化－中型電
 算機の導入
 - ・中央センターとの交信改善－中型電算機との接続
 - ・セルフサービス機能の充実，映像資料収集・編集・再生用機器の常備と貸出
 - ・知識資料有効利用法の開発，地区内外利用者（特に学外）への中継機能充実
 - ・地区内利用者（特に学外）との交信改善，情報（記録媒体）提供・コピーサービス向
 上
 - ・センター報告による，利用法改善研究成果・現状紹介記事充実
- 必ずしも現員のためではなく

保存資料の充実

- ・時系列変動性基盤（環境）資料の年次的収集
- ・研究主導型資料の収集・供出（一般研究・突発災害調査終了後，退官時など）
- ・関係者研究成果，他官庁他報告の積極収集
- ・逸散懸念官庁他資料の積極収集，（偶然）発掘資料の提供

- ・センター報告（資料整備・活用状況含む）定期刊行の継続

保存方法の改善

- ・保存用資料庫の拡張・整備
- ・所在・内容ラベル情報の充実，検索（リトリート）の容易化
- ・大部資料の小スペース化保存工夫

〔2〕災害資料の簡単な分類

A) 一般分類（次数別）

- 0 次資料：生の実験・観測データ，被害調査記録など
- 1 次資料：統計資料，被害報告書，災害地図など
- 2 次資料：いわゆる文献資料

B) 一般分類（階層別）

- 事実資料：（高度の推論・解析などによってでなく存在する，あるいは得られた）事実に関する資料
- 知識資料：現象の解釈，被災予測，防災対策・計画推進などのための既存知識—理論，実験・経験式などのように概念の明確になったもののみならず，エキスパートのみがもつ概念的あるいは定性的知識も含む⇒具体的な形をとったものが [成果刊行物]，そうでないものが [人材資源]

C) 事項別分類

- 既往災害事例資料：道庁—支庁—市町村史資料など
- 地区基盤環境資料：基本資料—発展資料—特殊資料
- 災害基本図書資料：各種統計書・地図書（道内，国内，世界），災害基本雑誌，災害映像記録，新聞等報道記事，災害報告（体験談含む）
- 研究主導型資料：研究の途次，必要とされあるいは獲得される資料，目的・個性が強い